

## 神奈川横浜フェア2016 in 香港

### 概要

香港は人口が約736万人、自由貿易制度が高度に発達し、資本や情報の流れが活発で、物流・金融ハブとしての機能が充実しています。アジアの主要都市まで4時間以内で移動できるなど有利な地理にあります。一部の物品税（アルコール30%以上のもの）を除き関税がないことから、世界からの貿易の中心となっており、日本からの食品の輸出量も第一位となっています。

当協会では食品事業者への海外展開支援事業の一環として、経済産業省関東経済産業局、神奈川県、ジェトロ横浜、YOKOHAMAGOODS 001 の後援をいただき、10月19日から25日までの1週間、食品に関する物産展「神奈川 横浜フェア」を香港そごうにて開催しました。

参加事業者は8社で、取扱品目は和菓子、日本酒、飲用酢、チーズケーキなど多彩にわたりました。



香港の繁華街

### 出展者

- (有)いづみや（横須賀市、和菓子）
- (株)小田原鈴廣（小田原市、練製品）
- (株)ガトー・ド・ボワイヤージュ（横浜市、洋菓子）
- (有)金井酒造店（秦野市、酒）
- (株)研進（平塚市、トマトジュース）
- (株)銚子屋（横浜市、和菓子）
- 天然素材蔵（川崎市、飲用酢）
- 日本精麦(株)（寒川町、大麦加工食品）

### 商談会の開催

8月4日に香港の食品輸入商社、香港そごうの担当者を招き、横浜において出展品の事前調整のための商談会を行いました。出展業者から香港で販売する商品の提案をして、売れ行きの可能性について意見を交わしました。



商談会の様子

### 香港食品市場開拓セミナーの開催

フェアの開催に先立つ9月13日に、香港食品市場の現状を知っていただくため、セミナーを開催しました。国際社会貢献センターの大橋 幸多氏からは、「農林水産省が日本食品の輸出総額1兆円目指している中、香港への輸出は全体の22.7%と約4分の1を占めており、これは農水産物輸出市場として、2015年で10年連続して第1位である。」旨のお話がありました。



大橋講師（右）と事業者との質疑



講演する関原講師

続いて、国際社会貢献センターの関原 滋彦氏からは、「日本国内は少子高齢化が進行しているなか、新興国では富裕層が増えていて、購買力があがっており、ここに新しい市場がある。従って、海外の新興国市場に進出していくことで、新たな成長戦略を策定することができる。商品が定着するまで、経営陣自らが費用負担も含め腹を括って取組むことが重要である。」というお話がありました。

### 香港の輸入食品商社を訪問

「神奈川 横浜フェア」開催前日の10月18日に、窓口である食品輸入商社を訪問し、現地の食品市場や日本商品の流通状況などについて意見を交わし、その後、物流倉庫を見学し、商品の管理や配送方法などについて視察しました。



訪問した輸入食品商社での説明



物流倉庫の見学

### 「神奈川 横浜フェア in 香港」の開催

10月19日から25日まで、香港そごう地下2F食品売場の特設コーナーにおいて、フェアを開催しました。商品によって売れゆきの違いは多少ありましたが、台風直撃の日を除いて、概ね順調でした。特に、和菓子、トマトジュース、麦ごはん、チーズケーキ、日本酒、飲用酢等が好調でした。

販売補助員が試食や商品の説明などを行い、積極的に声をかけることで販売促進につなげました。香港での日本食への関心は高く、特に健康志向の商品に人気が集まりました。





香港フェア会場の様子



### 香港商社と参加事業者の意見交換会

10月20日、フェアの窓口となった香港の商社と参加事業者との意見交換会を開催し、今回のフェアや今後の香港市場で事業を行う際の課題について意見を交わしました。



意見交換会

### まとめ

参加事業者からは、「今回のフェアで海外展開の手法についてかなり勉強になった」「今後海外販路拡大のビジネス展開をしたい」という意見もよせられ、海外進出への意欲が感じられました。

横浜貿易協会としては、これからも物産展事業を継続的に行い、神奈川県内外の食品事業者の海外展開を積極的に支援していきたいと考えています。